

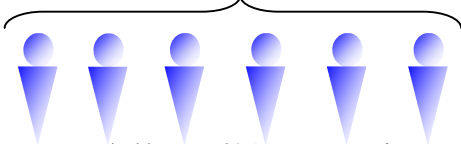
■ 生駒北小学校・生駒北中学校の小中一貫教育 ■

- 9 学年の幅広い異年齢交流で豊かな人間性を培います。
- 小中学校教員の協働による指導で学力の向上に努め、生徒指導を充実させます。
- 小学校は 6 年間、中学校は 3 年間という枠組みで教育活動を行います。
- 特色ある教育活動や行事のあり方は地域の意見をよく聞いて、また全国の先行事例を研究して、生駒北小中学校の教員が編成していきます。
- 小学校卒業式、中学校入学式は従来どおり行います。
- 生駒北小学校・生駒北中学校の校名、校章、校歌などに変更はありません。

■ 全学年が 1 学級のときの配置基準に基づく教員数 ■

○ 現行の場合の教員数 (生駒北小学校)

小学校教諭 6 人 (学級担任のみ)

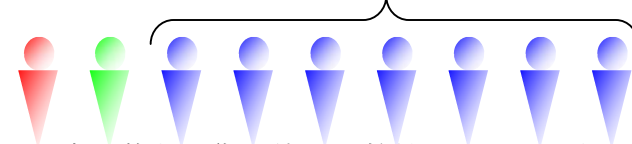


- ・ 特に小学校で、教員の空き時間がない、音楽などで専門的な技術を持った教員を配置できない、教員が休んだり、出張したりしたときの補充教員がないなどの問題が生じます。

○ 現行の場合の教員数 (生駒北中学校)

校長 教頭

中学校教諭 7 人

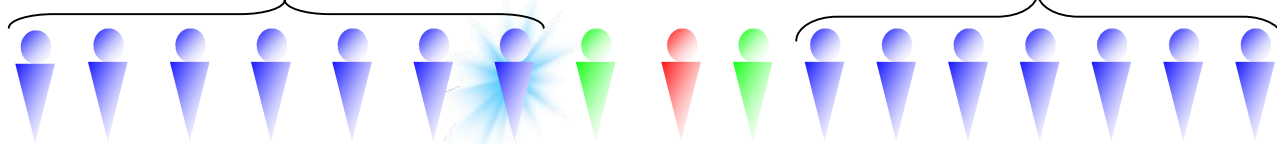


○ 小中一貫校にした場合の教員数 (生駒北小中学校)

小学校教諭 7 人 (学級担任 + 1 人)

教頭 校長 教頭

中学校教諭 7 人



- ・ 校長 1 人分の配置枠を教諭として配置することで、教員 1 人分のゆとりが生まれます。この 1 人を適切に活用することで授業の準備や個別指導、生徒指導等の充実につながります。
- ・ 中学校の音楽や美術、家庭科などの担当教員が小学校の指導にあたることも可能です。それによって時間の余裕ができた小学校教員が中学校の授業に入り、学習のつまずきに対応することもできます。
- ・ 同じ学校にいる教員が小学校から中学校卒業まで継続して指導することで、1 人 1 人の生徒をよく知っている教員がいて、生徒指導や生徒の相談を充実させることができます。
- ・ 小学校教員も理科や英語、体育などで中学校教員の専門的なアドバイスを受けて授業の準備をすることができます。
- ・ 小中学校の教員がいっしょに授業研究をしたり研修をしたりすることで、それぞれの教育内容を共通理解し、小中の学習指導の継続性が高まります。

■ 9 学年が同じ校舎で学習する効果 ■

- ・ 中学生に小学生の模範として行動しようとする自覚が生まれます。
- ・ 中学生に小学校低学年と接する機会ができることで、小さい子どもに優しい気持ちで接しようとする態度が生まれます。
- ・ 幅広い異年齢交流が、将来的に地域のつながりを強くします。
- ・ 小学校 6 年生が小学校の最高学年として活動する機会も従来と変わりません。

■ 予想される課題 ■

- ・ 小学校 (45 分) と中学校 (50 分) の 1 単位時間の違いから校時表やチャイムに工夫が必要になります。

■ 特色ある教育活動 ■

- ・ 全国の先行事例では学校独自の特色ある教育活動の推進で成果があったと報告されています。
- 例) 合同行事：小中学生が一緒に清掃や運動会をすることで活動に活気が出た。
- 例) 部活動：小学校 5 年生から参加し、小学校教員も指導にあたることで、部員が増え、部の数も増やすことができた。
- 例) 地域学習：総合的な学習の時間を小中学校継続したテーマで進め、地域に根ざした学習が充実した。